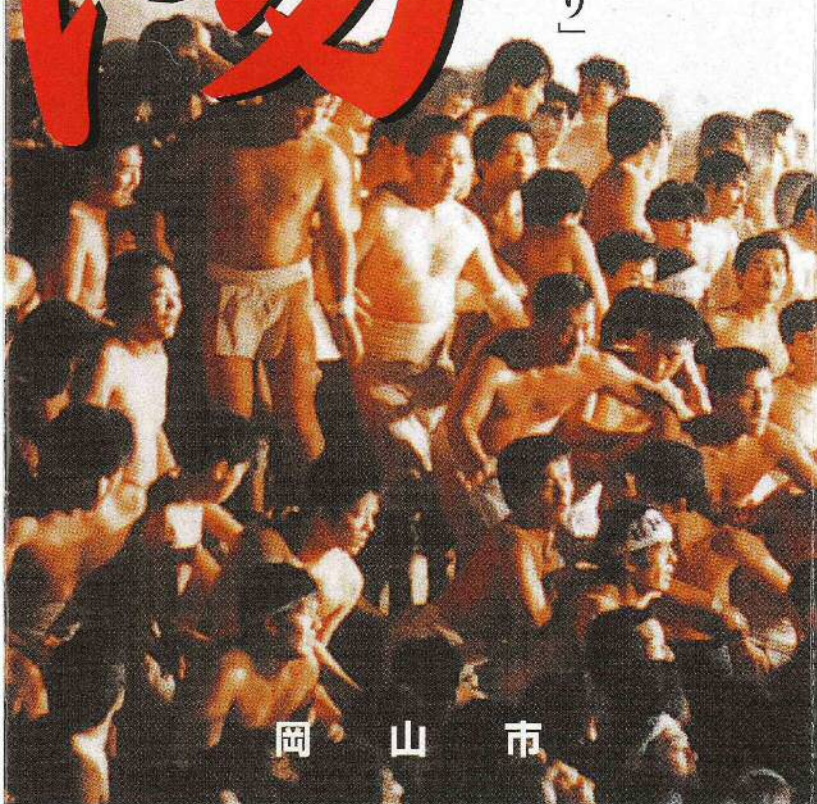


会公陽

え
よ
う

毎年2月第3土曜日

五世紀にわたる神秘的な
歴史ロマン——「はだか祭り」



岡山市



西大寺観音院の全景



裸の順路
会陽に参加するには
① 仁王門から入る
② 石門をくぐる
③ 垢離取場で水ごりを取る
④ 本堂大床に上がって祈願
⑤ そのまま牛玉所権現に参拝
⑥ 裸が締め合う場と決められた四本柱をくぐる
⑦ 再び本堂に参る
という順序を踏まなければならない。



西大寺ご案内図

● 西大寺参詣所要時間
・ 赤穂線西大寺駅より徒歩10分
・ 西大寺バスセンターより徒歩10分
・ 岡山天満屋バスセンターより
西大寺バスセンターまでバスで30分

● 観光のお問い合わせは ●

岡山市東区役所総務・地域振興課
TEL (086) 944-5038 (直通)

岡山市観光コンベンション推進課
TEL (086) 803-1023 (直通)

(社) おかやま観光コンベンション協会
TEL (086) 227-0015

ももたろう観光センター
TEL (086) 222-2912

会陽——はだか祭りの由来——

約二百年前、西大寺(観音院)を安隆上人が創設したとき、奈良東大寺の良弁僧正の弟子実忠上人が編んだ修正会(しゆしやうえ)をこの寺へ伝えました。修正会とは正月に修する法会の意で、西大寺では14日の間、十余人の一山の全僧侶が斉戒沐浴して、祭壇に牛玉(こおう)を供え、観世首菩薩の秘宝を修し、国家安穩、五穀豊穰、萬民繁栄の祈禱を行うものです。牛玉というのは、杉原やH笠という丈夫な紙に右から左へ牛玉、西大寺、宝印と順に並べて刷ったもので、14日間の祈禱を経て、満願になると、ことし一年の五福寿、富、康寧、好徳、終年)を授ける意味で、その牛玉を信徒の年長者や講頭に授けていました。ところがその牛玉をいたいた人は農家は作物がよくとれ、厄年の人は厄を免れるので、年々希望者がふえ、奪い合うようになりました。紙だと奪い合うとちぎれるので、いまから約五百年前の室町時代の永正7年に、時の住職忠阿上人が牛玉の紙を直径約4cm、長さ約20cmの木製の宝木(しんぎ)にかえ、むらがる信徒の中に投げ、これを得た者に五福を与えるようになりました。このとき初めて、会陽(えいよう)と名付けられました。今は2月の第3土曜日に行われるところから、これにさかのぼって行事が行われています。



宝木



宝木とり

会陽の日より17日前の深夜、午前零時に使者が、西大寺の西方3kmにある広谷山無量寿院へ宝木の原木を受けとりに行く。一行は7〜9名で、青笠に手甲、脚絆、わらじばきという古来のいでたちで、うち1名だけかみしも姿である。道中は一切無言である。

修正会

形の整えられた宝木は、香を塗り焚きこめられて、牛玉宝印とされるされた聖なる紙に包まれ、本尊千手観音の背後に納められる。そしてその後14日間の祈願がささげられるのである。



牛玉

牛玉紙は中央に西大寺、右に牛玉、左に宝印と刷られ、一字あて宝珠の朱印を捺した護符である。これを単に牛玉ともいい、また宝木をこれに包むので、宝木のことを牛玉ともいう。

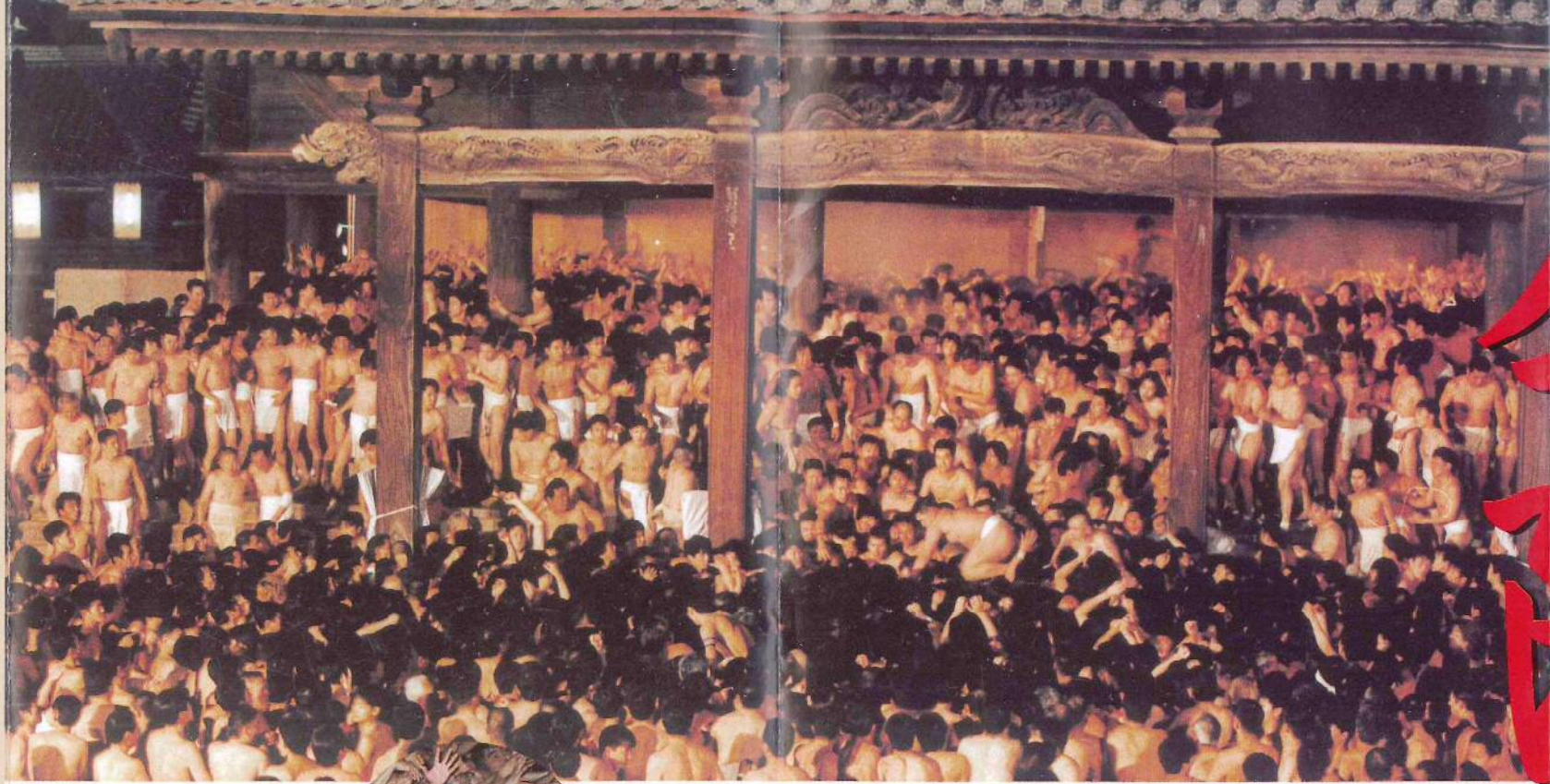
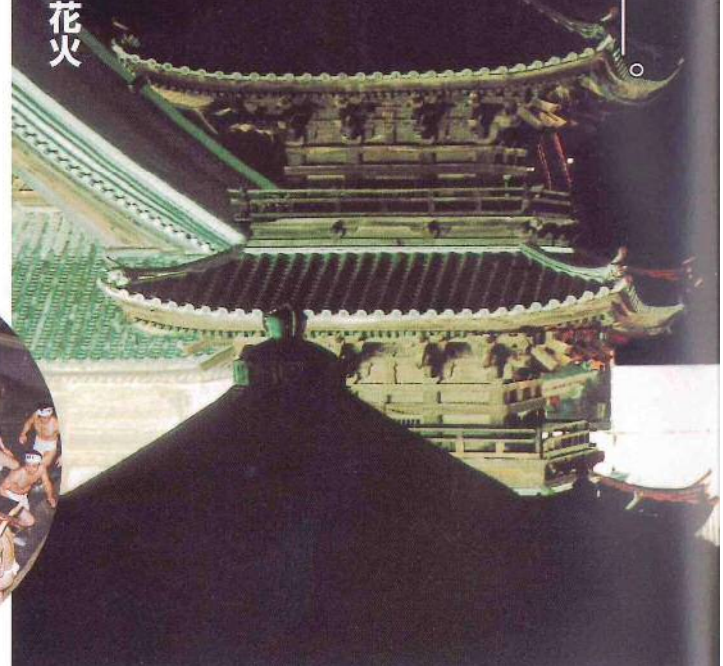


夜空を彩る華やかな光の演出とともに、
勇壮な「はだか祭り」が、いま始まる。

会陽



会陽冬花火



裸群のくり込み →
ふれ太鼓が廻ると町内のあちらこちらから境内目ざして、ワッショイ、ワッショイのかけ声とともに裸群が続々とくり込んでくる。



垢離取場 →
境内に集った裸群は、宝木の争奪戦前に必ず何回となく垢離取場の冷水に入り身体を清め、斎戒沐浴して福が授かるように祈願をする。



宝木投下
宝木投下直前になると万余の裸群は本堂へ集まる。本堂の大床には一升枓に1人の割で裸がつめこまれているという。↓宝木は当日22時、本堂御福窓から住職の手によって、裸群の上に投下される。

宝木争奪戦 ↑
肉弾相うつ激しい争奪戦は渦と云われ、本堂から境内へ数組に分かれてもみ合う……やがて「宝木が抜けた」という声とともに裸の群れは散っていく。宝木は取主により会陽奉賛会へ持ち込まれ、検分の後、祝主へ納められる。宝木の取主は福男と呼ばれる。



西大寺 会陽太鼓
西大寺会陽太鼓は宝木の争奪戦に参加できない女性たちが、裸の男たちの志気を高めるとともに、安全を祈願するために結成したもので、会陽当日、場内に鳴り響きます。



会陽あと祭り
はだか祭りの翌日から約2週間、あと祭りが行われる。境内に屋台や露店が並び植木市やセトモノ市が開かれ、遠近の人々で賑わう。1週間目の日曜日には稚児入練供養が、2週間目の日曜日には柴燈護摩が執り行われる。



稚児入練供養
ちごいりねりくよう
稚児入練供養が百余名の奉仕で華やかにくりひろげられる。



柴燈護摩
さいとうごま
大地に炬を作り、薪を組みあげて柴をたき、交通安全、病氣平癒、商売繁昌、厄災消除等を祈念する。また古いお札やお守をおはやす。